

西濃農林事務所の普及活動状況（令和6年10月）

今月の重点活動

■指導農業士 次期「ぎふ農業・農村基本計画」策定に向けた意見交換会の開催

10月8日、西濃総合庁舎において、指導農業士5名、県機関3名（農業経営課、西濃農林事務所）が出席し、次期「ぎふ農業・農村基本計画（R8～R12）」策定に向けた意見交換会を開催した。

意見交換会では、最初に農業経営課から「食料・農業・農村基本法改正のポイント」や「意見聴取のテーマ」について、説明が行われた。

指導農業士からは、自分の経営概要を説明後、普段感じている現場で直面する課題、解決に向けたアイデア等が出され、活発な意見交換となった。この結果をふまえ、11月開催の「岐阜県農業の未来を語る会」において、今回の意見を支部長から報告することになる。

今後も、農林事務所は関係団体等を対象に、各会議や打合せ機会を通じ、意見聴取を行っていく。



【意見交換会の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■土地利用型作物 土地利用型営農組織の法人化に向けて

輪之内町では、土地利用型農業の担い手である営農組織の法人化へ向けた打合せが活発に行われている。

10月26日、下大上営農組合法人化支援の12回目の打合せが行われた。今回の打合せでは、ぎふアグリチャレンジ支援センターより社会保険労務士を講師に招いて、農事組合法人における労災保険等について説明を受け、生産活動における保険制度等について検討した。

会議には、ぎふアグリチャレンジ支援センター・輪之内町役場・農林事務所の職員が出席し、活動支援を行った。

農林事務所では、今後も営農組織の法人化へ向けて支援を行っていく。



【会議の様子】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■大豆 ハスモンヨトウの大量発生に対応

岐阜県では、8月23日にハスモンヨトウの発生予察注意報が発表され、海津市では9月下旬から10月にかけて、一部地域の大豆畑でハスモンヨトウが大量発生し、大きく被害された。

各生産者はこの被害発生に対応し、JAにしみの、農薬取扱業者と連携し、RCヘリでの殺虫剤防除、乗用管理機での地上防除を早急に実施した。また、複数回の防除を行った効果もあり、被害が減少するに至った。

農林事務所は現地において発生状況を確認し、薬剤選択、防除時期等の指導を行った。



【ハスモンヨトウ被害確認】

■キャベツ・（農）室原営農 スマート農業現地検討会

10月2日、養老町室原地内でスマート農業現地検討会を開催した。生育中のキャベツへドローンでの防除デモを実施後、JA営農経済センターへ移動し、全農岐阜の担当から、画像データ診断に基づいた可変施肥について説明を受けた。

農林事務所では、今後も関係機関と連携し、担い手不足の解消が期待できる新型農業機器の導入及び運用を支援していく。



【ドローンでの農薬散布デモ】

■有機(水菜) 第2回西濃地区有機農業推進プロジェクトチーム会議の開催

10月1日、神戸町にて、農林事務所が立ち上げた有機農業推進プロジェクトチームの第2回会議を開催した。営農モデル実証ほ生産者・JAにしみの・神戸町役場・県農産園芸課が出席し、実証ほの結果や今後の取り組みについて検討した。

今年度1作目も慣行栽培とほぼ同等の単収を維持し、アザミウマ類を抑制した成果が得られた。生産者も新たな(有機で使える)資材等を試験してみたいなど、有機への意欲が高まっている。

農林事務所では、来年2月開催の「西濃農業の活性化をめざすセミナー」にて、当プロジェクトの成果報告を行う予定であり、有機栽培の普及拡大を図っていきたい。



【プロジェクト会議の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■稲・（農）大巻、（株）イイダ農園 稲こうじ病対策の調査を実施

10月1日、農協、農薬メーカーとともに、養老町で課題となっている稲こうじ病対策試験の発病等調査を行った。

技術対策を行った水田では、行っていない水田より発病率が5分の1以下となり、発病抑制効果が確認できた。

農林事務所では、今後、技術対策に要したコストに基づき、費用対効果の経営分析を行い、生産者へ情報提供を行う計画である。



【稲こうじ病調査】

■きゅうり 海津胡瓜部会目揃会の開催

10月3日、JAにしみの海津中支店において、海津胡瓜部会の目揃会が開催された。

全農、市場関係者からは、現在の販売状況や今後の販売について情報提供があった。部会検査係からは、本年産は9月の残暑が厳しく、「尻太」等の果形が多いことから、現物を示しながら、より正確に選別するように指導が行われた。

西濃農林事務所からは、注意報が発表され、多発しているコナジラミ類、ハスモンヨトウ、カメムシ類の害虫の発生状況と対策について、再度啓発を行った。



【目揃会の様子】